

読み先習の意義はわかったが、具体的には、いつ、どのように“書く”指導を始めるのか。

幼児は、漢字を読む学習によって、頭を働かせ、知能を高めることができるのであって、漢字を書く学習によっては、そのようなことは期待できません。

小学校や中学校でよく見られる“漢字の書取り練習”は、全く無意味だとは申しませんが、無駄なことだと思っています。同じ字を繰り返し書くことによって、認識を深めるのだということですが、本人が自主的に、工夫しつつ繰り返すのでしたら意味がありますが、画一的に二十字ずつ、とか、一ページとかと課する学習は、子供の頭を良くしないで、か



書取り練習は頭の働きのにぶい気力のない子供にする

えて頭の働きのにぶい、気力のない子供にするだけではないかと心配されます。

ああいう書取り練習では、頭を働かせるよりも、頭の活動をおさえることになると思います。

林謙氏の「頭脳」という本の中に、“頭を良くする方法”として、栄養と睡眠のほかには、“頭を使う”ことだけだとあり、その“頭を使う”ことの中で、最も有効なのは“本を読むこと”だと書いていらっしやいます。つまり教育の面から、“頭を良くする”最良の方法は“読む”ことだということです。

昔から、“読み書き”と並称され、漢字は読めても書けなければ価値



書く前に読み・意味・使い方が理解されていなければならない

がないように思われてきましたので、つい“書”けなければという気持ちになると思いますが、今は、そういう気持ちを捨てて、虚心に、その価値を考えていただきたいと思います。

そうすれば、書く学習は、幼稚園や家庭でやらせる必要は全くないことがわかりいただけると思います。小学校へ進んでから、学校での学習に任せればよいのです。

繰り返して申し上げます。子供は、“読む”ことによって頭の働きを良くすることができるのです。漢字は読めればよいのです。“書く”学習など無駄なことです。幼稚園や家庭ではやらせないでください。